



第 69 回東北公衆衛生学会実行委員会
会長 井原一成
(弘前大学大学院医学研究科社会医学講座)

本年 7 月 17 日に第 69 回東北公衆衛生学会を青森県の施設、アピオあおもりをお借りして開催致します。実行委員会を代表してご挨拶申し上げます。

東北公衆衛生学会は、昭和 26 年に第 1 回の学会が開催された伝統ある学会で、東北地方の公衆衛生の向上を図ることを目的に東北 6 県が持ち回りで開催しています。東北における公衆衛生及びその関連分野の研究発表・討議、交流の場として、各県の大学や研究機関、保健所や保健センターの皆様、そして健康づくりの第一線で活躍される住民組織の皆様にご参集いただけますようお願い致します。

今年の特別講演は、中路重之特任教授（弘前大学）と芳賀博教授（桜美林大学）にお願いしました。お二人からは、長年の公衆衛生活動と研究を通して到達した、健康づくりの新しい展開をお話いただけるものと思います。また学会としての新しい試みとして、小島光洋先生（弘前大学）をモデレーターに対人支援業務に関するワークショップを計画しました。2 つの特別講演は市民向け公開講座を兼ねています。ワークショップは守秘義務を守れる方が対象ですが無料です。学会そのものには参加されない身近な方達も聴講・参加いただければ幸いです。

東北の公衆衛生は、大学など高等研究機関が全国をリードする研究成果を発表する一方で、衛生行政の長い実践活動の歴史があり、研究者と保健関連職種が地域の健康課題に取り組んできました。脳卒中やがん、自殺などの高い死亡率や、医療資源の不足、健康格差などこれまで取り組まれている健康課題があり、東日本大震災が起こり、少子高齢化と人口減少が進んでいます。本学会で、さまざまな健康課題の解決にむけた基礎的、疫学的研究あるいは地域での実践活動をご発表いただき議論を深め、経験を学び合う機会としていただければ幸いです。

新型コロナウイルス感染症が最新の健康課題に加わりました。対策でご多忙の方々も多いと承知しております。学会当日にはパンデミックを脱して、皆様とホッと胸をなで下ろしながらお会い出来ますことを心より願っています。本学会の開催にむけ多くの団体からご支援をいただきました。感謝の気持ちを表しつつご挨拶とさせていただきます。